

2025年12月28日午前10時30分

降誕節第1主日 主日礼拝

司会 服部直子

奏楽 川上ゆり子

讃美歌・詩編交説・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)

前奏

招きのことば 第1コリント3:6-7

讃美歌 259「いそぎ来たれ、主にある民」 一 同

交説詩編 72:1-7(P.83/79)

祈り

司会者

《関東教区お祈りカレンダー》

白岡伝道所 七里教会 川越教会

(主の祈り)

讃美歌 268「朝日はのぼりて」 一 同

聖書 旧約 イザヤ 49:11-13(P.1143)

新約 マタイ 2:1-12(P.2)

メッセージ『過ちを改めるこころ』

祈り 川上 盾牧師

讃美歌 258(2-5)「神の子主イエスは」 一 同

献金

(献金感謝の祈り)

信仰告白(家族礼拝のための信仰告白) 一 同

頌栄 27

川上 盾牧師

祝祷

後奏

報告・紹介

＜招きのことば＞ イザヤ書 60:1-3

起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り、主の栄光はあなたの上に輝く。見よ、闇は地を覆い、暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上には主が輝き出で、主の栄光があなたの上に現れる。国々はあなたを照らす光に向かい、王たちは射し出でるその輝きに向かって歩む。

《12月礼拝当番》 畠中祥世 伊藤普史

五十嵐敏子 手塚福治

木暮富美子 岩渕デボラ

《今週の集会・行事》

◎ 本日礼拝後 教会報委員会(臨時)

◎ 2026年1月1日(木)

明けましておめでとうございます！

明けて2026年は140周年イヤーです。

《次週の主日》

◎主日礼拝 10:30

メッセージ『視点の転換』

聖書: 旧約: ゼカリヤ 8:1-8(P.101/97)

新約: ルカ 2:41-52(P.104)

讃美歌 208, 366(1,4,5,6), 196, 366(7)

交説詩編 89:1-5(P.101/97)

司会: 楠元 桃 奏楽: 徳江由利

◎ 1月定例役員会

《予告》

◎ 聖研祈祷会 1/7(水)10:30 & 19:30

◎ 婦人会例会 1/15(木)10:30

◎ 群馬地区教会協議会 1/18(日)15:30

内容: 兼牧について学び語り合う／高崎教会

《報告》

◎ クリスマス おつかれさまでした

先週主日はクリスマス礼拝、お二人の受洗とひとりの幼な子の幼児祝福が行われました。礼拝後は祝会、たくさんの人たちとイエス・キリストのお誕生を祝い、新たな仲間の歓迎の時を持ちました。24日はキャンドルサービスが行われ、聖書朗読とキャロルの賛美、聖歌隊の歌声と共にクリスマスの夜を過ごしました。そして本日は2025年最後の礼拝となります。新たな年、2026年は教会創立140周年を迎える年となります。これから様々な準備と共に、皆さんにご協力いただくことが出てくるかと思います。心を合わせて記念の年をを迎えましょう。

◎ 群馬地区教会協議会 (2026.1.18.)

新潟地区より、実際に兼牧での教会活動をしておられる三条教会から牧師・信徒を招き、兼牧の実際について聞き、語り合います。教会の財政逼迫と教団の牧師不足により、群馬地区でもいざれは兼牧の教会が出てくることが予想されます。兼牧を受けるだけでなく、送り出す側にも理解と共に働く志が必要となります。共にこの課題を担う群馬地区を目指して開催されます。役員でなくても誰でも参加できます。午後3時半より高崎教会で開催。

《消息》

◎ 寺尾百合子さん…転院されリハビリに励んでおられます。教会の皆さんへのお手紙をいただきました。掲示板をご覧下さい。礼拝への復帰までしばらく時間がかかりそうです。回復を祈ります。

◎ 堀 賴子さん…先々週、有志で訪問の機会を持ちました。ゆっくり平安にお過ごしです。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝	92	10	47,115
クリスマス愛餐会		72	
キャンドルサービス	71	23	

《メッセージ》「神の選び、その理由(わけ)」

ルカ1:46-56(12月21日クリスマス礼拝)

▼今日、クリスマス礼拝で二人の仲間の受洗式が行われた。先日の信仰告白会では、それぞれの信仰の思いが語られた。二人には「自分の決意で信仰を選んだ」という思いがあるだろう。けれども、そこで考えて欲しい。「自分か神さま(イエス・キリスト)を選んだのではなく、神(キリスト)が自分を選んで下さった」…そう受けとめるのが信仰の営みであるということを。▼恋人たちの愛の告白になぞらえるなら、「あなたが告白したから神さまが振り向いてくれた」ではなく、「神さまから『あなたを愛しているよ』と言われている、そのことに気付いたから『はい』と返事をした」…それが洗礼の決意なのだ。「神さまは全宇宙の中で、他でもないこのわたしを選んで下さった」そう信じる時、そこに確かな信仰の歩みが与えられるだろう。▼では、神さまが私たちを選ばれた、その「選びの理由」とは何なのだろうか? 現世での祝福を与えるため? 天国への招待券を手渡すため? クリスマスのマリアの物語がそのことを教えてくれる。▼マリアはまさに「選ばれた人」。突然現れた天使が「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられます」と語りかける。しかし続く言葉は決して「めでたい」ものではなかった。結婚前の彼女に示された幼な子の懷妊。それは様々な非難やバッシングの標的にされかねない事柄であった。▼神の選びはうれしいことは限らない、むしろ苦労を背負うこともあるかも知れない…そんな運命を、それでもマリアは「お言葉通りこの身になりますように」と引き受けゆく。自分に益があるから、楽しくワクワクすることだから…ではない。しんどい、重荷に感じることだけれど、それが世界の救いにつながることだから引き受けるのである。▼親類エリサベトの訪問を受けた時に、マリアが返したのが「マグニフィカート(マリアの賛歌)」である。この賛歌の中に神の選び・その理由が示される。「力ある方が、身分の低いはしたために目をとめてくださった」。マリアは高貴で優れた女性だから選ばれたのではない。いと小さき者だからこそ選ばれたのだ。▼さらにマリアは神の驚くべき業を語る。「思い上がる者を打ち散らし、権力ある者を引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えた人を満たし、富める者を空腹のまま追い返される」。私たちが「当たり前」と思っている秩序がひっくり返される、そんな革命的な出来事を語るのである。▼神の救いはそのような形で世に届けられる。そして、そのためにイエスは世に来られた…そのことを示すのが飼い葉おけの中に生まれた幼な子の姿である。そんな神の救いの働きの一翼を担うためにマリアは選ばれたのである。▼神が私たちを選ばれるのも同じ理由からである。私たちが快樂に満ちた人生を歩んだり、他人を蹴落とし勝利者になるためではない。いと小さき者を大切にし、そこから少しでも世界の救いにつながる者となる…そのために選ばれたのである。